

令和4年度  
学校関係者評価報告書

一般財団法人岩手済生医会  
岩手リハビリテーション学院

## 別添資料 次第

令和4年度 自己評価報告書

令和4年度 学科別自己評価報告書

令和1～4年度 国家試験結果および留年者・退学者状況報告書

学院案内 2024

令和6年度 学生募集要項

## I 会議の概要

日時 令和5年7月7日（月） 19時00分～20時00分

会場 岩手リハビリテーション学院

出席 岩手リハビリテーション学院 学校関係者評価委員会

委員 一般社団法人岩手県作業療法士会 会長

委員 一般社団法人岩手県理学療法士会 副会長

岩手リハビリテーション学院 職員

学院長 齊藤和好

副学院長 細川康紀

理学療法学科長 及川龍彦

作業療法学科長 岡崎謙治

事務長 峯 智

## II 会議の内容

### 1. 開会

開会にあたり細川副学院長より、委員長の岩手リハビリテーション学院同窓会「桐友会」会長は体調不良により本日欠席となることが報告され、続いて令和5年度学校関係者評価委員会開催の旨が告げられるとともに、配付資料の確認がなされた。

### 2. 学院長挨拶

齊藤学院長より、出席に対する御礼と報告に対する審議の依頼がなされた。

### 3. 委員紹介

細川副学院長より、学校関係者評価委員会委員ならびに職員の紹介がなされた。

#### 4. 議長代行について

委員長欠席につき学校評価実施規程第 14 条第 6 項に則り、一般社団法人岩手県作業療法士会会長が議長を務めた。

#### 5. 自己評価結果報告（対象期間：令和 4 年 4 月 1 日 ～ 令和 5 年 3 月 31 日）

細川副学院長より報告に関しては「現状および課題」ならびに「対策」に分けて報告する旨が示された後、学校全体の内容に関しては細川副学院長、学科単独の内容に関しては及川理学療法学科長、岡崎作業療法学科長より令和 4 年度自己評価報告書に沿って報告がなされた。

資料掲載事項以外の口頭説明の主旨は以下の通り。

##### 1. 教育理念・目標

- ① より具体的に教育方針を周知するために策定している 3 つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）の変更・改正については、令和 7 年度を目途に学則改正と併せて検討していく。
- ② コロナ禍の影響から開催困難となっていた就職説明会について、令和 5 年度は両学科合同で今月に実施予定であり、多くの施設が参加予定のため各施設の要望等を確認しながら業界ニーズの把握に努めていく。

##### 2. 学校運営

- ① 令和 4 年度から本格的に運用を開始している学籍管理・成績管理システムは軌道に乗っており、デジタル化により業務の効率化が図られている。
- ② これまでアナログ対応としてきた学生掲示版については、ホームページに学生掲示板機能を追加の上、デジタル対応とし、令和 5 年 9 月から全学年の学生が情報共有を図れるように準備を進めている。

##### 3. 教育活動

- ① コロナ禍による臨床教育（評価実習等）の学内実習への変更や、対面授業が Web 授業へ変更となった学生の学業への影響については、期末考査の全体成績の推移からは学業への影響は少なかったと思われるが、4 学年の総合実習終了後に臨床教育も含め改めて影響について検証していく。

- ② 教員数に関して、令和4年度は両学科とも定員を充足することができたが、理学療法学科では定年退職者により令和5年度は1名欠員となっているため、ホームページによる公募を検討し、人員の確保に努める。

#### 4. 学修成果

- ① 理学療法学科の国家試験について、令和4年度は卒業生を輩出していないため新卒者の受験は無く、令和5年度は37名が受験予定のため、総合実習終了後に国家試験対策を進めて合格率100%を目指す。
- ② 作業療法学科の国家試験合格率について、令和4年度は3年制旧カリキュラムの4名が受験し、合格者は1名のみとなった。  
令和5年度の4年生は入学時から順調に単位を修得しており、総合実習終了後に国家試験対策を進めていく。
- ③ 理学療法学科における留年者・退学者について、入学後に理学療法に対して学生がイメージしていたものとの違いを訴えるなど、入学前に理学療法のイメージを持ってないまま入学する学生が多いため、入学以前の説明会等において希望者に対し理学療法の仕事を理解してもらうことを中心に説明していく。
- ④ 作業療法学科における留年者・退学者について、個々の学力的な問題もあるが、入学後に意欲や動機付けを上手く指導できなかったことについては責任を感じている。退学者のうち1名は同じ学年を2年続けて留年となったために学則に則る退学である。他は進路変更によるものであるが指導力不足を痛感している。

#### 5. 学生支援

- ① 理学療法学科における就職支援について、令和4年度は卒業生を輩出していないため就職実績は無いが、令和5年度の4年生に関することとして、昨年度から定期的に各施設宛に就職活動に関する通知を発出し、今年度に繋げる活動を行った。
- ② 作業療法学科における就職支援として令和4年度は3年生旧カリキュラムの4名を対象の就職説明会を開催した。同説明会には将来を見据えた活動として3年生（現4年生）も参加させた。
- ③ 理学療法学科における学生相談について、本学科は担任制ではないため全教員が学生に関わっている状況で、学生からも一定数の相談はあり、悩み事等を解決する方向で運営できているが、感情表出が苦手な学生もいるため教員側から働きかけを行う努力をしている。

- ④ 作業療法学科における学生相談について、本学科は担任制を敷いており、学生は5月連休明けに悩み事が散見されることが多いため年度初めに必ず1回は担任との面談を企画・実施している。その他にも気になる学生に対しては声かけを行い、学生からの相談にも随時対応している。また、学生の保護者に対しても案内しており、相談窓口は可能な限り広くとり支援するようにしている。
- ⑤ ハラスメントについては、学院内に相談員を2名(副学院長・事務長)配置しているが、相談内容の幅を考えて今年度から事務長に代わり女性事務員を配置した。また、教員も随時相談を受け付けているが、学生にとっては直接口頭で申し込みにくいことも考慮し、相談方法を受付箱の設置による申込制とすることで学生が相談しやすい体制を整えた。

また、業者による自己発見検査・スクールライフアンケートを導入し、学生自身の性格や学習意欲、現在の生活などについて振り返りを行うことでフォローできるように体制を整えている。
- ⑥ 保護者等との連携については、各学科において保護者説明会を企画し、説明会の内容等については保護者等からのアンケートを踏まえ検討の上実施しており、今のところ保護者等からの要望は特にない。

## 6. 教育環境

- ① 指定規則の改正に伴う機器備品の整備については、5か年計画により進めてきており令和5年度で整備が完了する予定である。また、今後必要となる機器備品については更に5か年計画を策定し、購入を進めていく。
- ② 施設の老朽化対策については、令和5年度から3か年計画で外壁工事を中心に整備していく。

## 7. 学生受け入れ

- ① 全国的に高校生数が減少している状況で、理学療法士・作業療法士を目指す学生数も減少しており厳しい現状ではあるが、高校訪問、オープンキャンパス、学科別での説明会などを通して本学の特色や魅力を発信している。

## 8. 財務

別添資料「令和4年度自己評価報告書」の通り。

## 9. 法令遵守

別添資料「令和4年度自己評価報告書」の通り。

## 10. 社会貢献・地域貢献

- ① 近隣の長田町第二町内会と盛岡駅西口地域包括支援センターからの協力依頼があり、令和4年度から本校を加えての地域活動について検討が行われ、令和5年度は地域住民と学生との懇談会を計画している。

## 7. 自己評価各項目についての質問・意見

### 1) 留年者・退学者状況について

質問 理学療法学科における留年・退学する学生について、入学者のイメージの違いについての説明があったが、入学前と後の具体的なイメージの違いとは何か。  
(理学療法士会副会長)

回答 大きく分けると二つのケースがあり、一つは介護としてお世話をする仕事だと思っていたが治療となると想定しなかったケース、もう一つはこれほど勉強が大変な学校だと思わず、もう少し気楽にキャンパスライフを送れる学校だと思っていたというケースがある。  
ただし、全体としては少数であり、ほとんどの学生は理学療法士の仕事や勉強の大変さを理解の上入学してきている。(及川)

質問 作業療法学科についても同じようなことはあるのか。(作業療法士会会長)

回答 年度によって違いはあるが令和4年度の学生については、勉強が大変なことは理解しており、その都度指導はしてきたが、将来の職業観等についての動機付けや意識付けの弱さもあり、最終的には学力的に追いつくことができずに留年・退学に至ってしまった。

意見 退学者について、高校の進路指導の先生方がどこまで理解しているのかなど高校との繋がりも必要になるため、退学者の出身高校をフィードバックして入学前後の高校との繋がりを持つことも重要ではないか。(作業療法士会会長)

### 2) 4年制と3年制の違いについて

質問 今年度は4年制に移行後初めての4年生となるが、これまで過ごしてきた中で特徴として3年制との違いはあるか。(理学療法士会副会長)

回答 4年制になると余裕をもって勉強に励むことができると考えていたが、3年制の時とあまり差はなく、また、3年制・4年制に関わらず以前よりも学習の仕方を知らない学生が多いため、教員が様々な方法により指導をしているが難しいと感じている。(細川)

回答 理学療法学科では、4年制となり1年増えたことにより学生の成熟期間が延びた印象がある。現4年生の入学時は今後に向けて色々と心配したが、学年が進むに従い、実習で臨床を経験することで自分は理学療法士になるという実感

を持ちながら頑張っている。(及川)

回答 作業療法学科では、1学年から4学年までの1年毎の勉強の流れが見えたことによる心と時間の余裕は感じているが、1年毎の単位取得の勉強量が大きく変わることはないため学生の大変さは変わらない。

現在の4年生では、新しい実習指導体制(CCS)の中で従来のスタイルと指導者からの情報量など、どこまで経験できるのかという部分ではまだ混乱している部分もあるが3年制カリキュラムよりも余裕がある分、今後は教員のまとめ方次第と考えており、1年延びた分は期待が持てると感じている。(岡崎)

意見 私は現場で理学療法の学生を指導しているが、岩手リハビリテーション学院の学生は良い意味で多少理解が出来なくても体当たりで乗り越える体育会系・現場型タイプと感じている。

4年制になり大学に近い印象を持っていたが、変に知識先行型にならず1年増えた分を考える時間に充てられているようなので、今後も3年制時の良さを生かしつつ4年制の良さを更に引き出していてもらいたい。(理学療法士会副会長)

### 3) 学生と県士会活動等について

意見 4年制になり学生が成熟するまでの時間が確保できるという点はメリットだと思うが、実践的な職業教育が臨床実習のみでは理学療法士・作業療法士のイメージが付きにくいいため、学生に県士会や協会の活動に参加してもらうことで将来活躍するイメージを持つことに役立てるのではないかと考えており、県士会と学院でタイアップして活動できればよい。(作業療法士会会長)

### 4) ハラスメントについて

質問 臨床実習中における学生へのハラスメントはあるのか。(作業療法士会会長)

回答 今のところ問題視されるようなことは起きていない。学生が指導者との関係性を考えて発言できないことや教員にどこまで伝えるべきか学生自身がデメリットを考えて相談できないことも推測されるため、教員がきめ細かくフォローする体制をとっている。(細川)

回答 臨床実習におけるハラスメントに関して、今は実習指導者講習会が普及し、多くの若手・中堅の指導者が受講しており、以前よりもハラスメントについては相当気を遣っている現状がある。

今は CCS が中心となり以前よりも学生が入り込む場面が減っているため、それが良いか悪いかは難しいところではあるが学生が注意を受ける場面自体も減っている。(理学療法士会副会長)

#### 5) その他

意見 留年・退学について教員の力不足という話をされたが、前回は発言した通り退学等となる学生は、これまで学院で学んできた中で、自分の目指す道と違うということに気づき早めに決断し、自己決定していくということは、やむを得ないことであり、指導する教員がそれら全てを抱え込まなくてもよいと考える。  
(理学療法士会副会長)

#### 8. 閉会

議長より令和5年度学校関係者評価委員会の閉会が告げられた。